

十和田市現代美術館 サテライト会場「space」展覧会

堀内悠希 Qの旅

会期：2024年9月21日（土）－12月15日（日）十和田市現代美術館

**馴染みのある経験や記憶を、彫刻、映像、ドローイングなど様々な手法で呼び起こす実験的表現**

十和田市現代美術館のサテライト会場spaceでは、2024年9月21日（土）－12月15日（日）の会期で、堀内悠希の個展を開催します。

ロンドンを拠点に活動する堀内悠希は、映像、立体、平面など様々なメディアを用いて、馴染みのある経験や自然界の現象を、直感的なイメージを想起させる瑞々しい表現として作品に留めます。過去には、ロウソクが燃える瞬間の、実体のない炎とその影を陶器で表現した彫刻作品や、多重露光で撮影することによって複数の時間を一つの画面に共存させる写真作品を制作しています。

本展「Qの旅」では、球体の彫刻、雲を捉えた映像、惑星を思わせるドローイングなどが展示されます。これらの様々な「球」をモチーフにした作品は、展覧会という特定の時間の流れや移り変わる季節の巡り、雪が解けるまでの時間と作品の寿命といった、多様な時間の存在を示唆します。ダブルミーニングに満ちた展示空間は、時間の重なりや意味の連鎖を生み出し、多くの人が共有する経験や個人的な記憶を呼び起こすだけでなく、更なる想像を掻き立てます。自明のものとして見過ごされてしまう身の回りの事象を、ささやかでユーモラスな美的体験と共に目の前に提示する堀内の作品は、鑑賞者が持つ既存概念を解き、現象を純粹に見つめ直し、新しく発見させることを促します。時空間を超えた「問いの旅」へと誘う展覧会です。

お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷（おおたに）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 media@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

【見どころ】

身近な現象を違った視点から再発見させる作品たち

作家はこれまで、光と影、星や雲といった馴染みのある自然現象やその性質を、独自の方法で再現してきました。例えば、本展で登場する雪や雲の作品は、どちらも氷の粒子の捉えられなさを表現しており、新たな発見を鑑賞者に促します。

多重な意味を持つユーモラスな展示空間

堀内の展示では、一見関連性がないように見える作品たちから、共通点や意味が生まれていきます。本展では「Q」という言葉・記号を様々な解釈した球体や天体といったモチーフが散りばめられています。作家が示唆する「Q」の正体は何か、想像を巡らせてみてください。

【作家プロフィール】

堀内 悠希 (ほりうち・ゆうき)



撮影：Hisako Kawakami

1990年奈良県生まれ、ロンドンを拠点に活動。映像、立体、絵画、インスタレーションなど様々な手法を用いて、時間や意味の重なりや、偶然の連鎖について既存の知覚概念と異なる視点から表現する。2015年東京芸術大学美術学部絵画科油画専攻卒業。2021年よりポーラ美術振興財団と吉野石膏美術振興財団の助成を受け、ロンドン在住。2023年スレード美術学校（ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン）修士課程終了。主な個展に「カンタムテレポーテーション」（駒込倉庫、東京、2023）「Parallel World」（NOHGA HOTEL Ueno、東京、2020）グループ展に「See the Light」（HAGIWARA PROJECTS、東京、2022）ALTERNATIVE KYOTO「余の光／Light of My World（旧銀鈴ビル、京都、2021）」「版行動 映えることができない」（東京都美術館、2021）など。<https://yuukihoriuchi.com>

【パブリック・プログラム】

堀内悠希と榊田倫広による対談

日時：9月21日(土) 14:00-15:15

会場：十和田市地域交流センター 大ギャラリー [住所：青森県十和田市稲生町16-1]

料金：無料

榊田 倫広 (ますだ・ともひろ)



東京国立近代美術館 主任研究員。1982年生まれ。早稲田大学大学院文学研究科美術史学専攻博士後期課程単位取得退学。担当した主な展覧会に「アジアにめざめたら：アートが変わる、世界が変わる 1960-1990年代」（共同キュレーション、東京国立近代美術館、韓国国立現代美術館、ナショナル・ギャラリー・シンガポール、2018-2019年）「ピーター・ドイグ展」（2020年）「ゲルハルト・リヒター展」（2022年）など。

お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷（おおたに）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 media@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

【開催概要】

展覧会名： 堀内悠希 Qの旅
会期： 2024年9月21日（土） - 12月15日（日）
開館時間： 10：00 - 17：00
休館日： 月曜日（祝日の場合はその翌日）
会場： space（住所：青森県十和田市西三番町 18-20）
観覧料： 無料
主催： 十和田市現代美術館
助成： 令和6年度文化庁文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業
後援： 青森朝日放送、青森テレビ、青森放送、エフエム青森、デーリー東北新聞社、東奥日報社、十和田市教育委員会
作品協力： 公益財団法人 熊谷正寿文化財団
企画： 中川千恵子

space

十和田市現代美術館では、美術館から徒歩約7分のまちなかで「space」を展示室として運営しています。アーティスト目[mé]による《space》は、一軒の空き家を大胆に展示室へと改装した作品で、2022年5月まで企画展 Arts Towada 十周年記念「インター + プレイ」展の出品作品の一つとして展示していました。現在、若手アーティストによる実験的な表現を紹介する場として活用しており、2022年7月より、アーティストの大岩雄典と青柳菜摘、昨年はドキュメンタリーアクターである筒 | tsu-tsu と写真家 三野新、今年の前期はメディアアーティストの尾角典子の個展を開催しました。

所在地：青森県十和田市西三番町 18-20

十和田市現代美術館

2008年に東北初の現代美術館として開館。草間彌生、奈良美智、塩田千春、ロン・ミュエクなど世界の第一線で活躍するアーティストらの作品を常設展示しています。美術館の中だけでなく、周辺には公園のようなアート広場があり、子どもから大人まで散策しながら魅力あるアートとのふれあいを楽しむことができます。

所在地：青森県十和田市西二番町 10-9

TEL：0176-20-1127 FAX：0176-20-1138 web：www.towadaartcenter.com



目 [mé] 《space》2020年 撮影：小山田邦哉



お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷（おおたに）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 media@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

【 広報用図版 】

ご希望画像の作品番号にチェックを入れ、申込みフォームの項目をご記入の上、本用紙を FAX または E-mail にてお送りください。

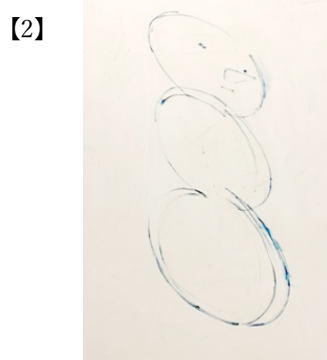
FAX : 0176-20-1138 / E-mail : media@towadaartcenter.com

TEL : 0176-20-1127 / 住所 : 034-0082 青森県十和田市西二番町 10-9

十和田市現代美術館 広報 大谷 行



「堀内悠希 Qの旅」メインビジュアル



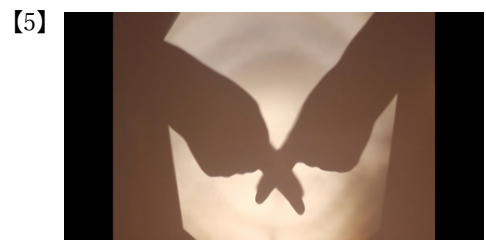
《Untitled》2024年



個展「カンタム テレポーテーション」
展示風景 2023年 撮影：末長真



《Candle Flames》2023年



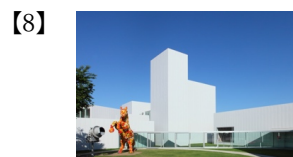
《Shadow of ABC》2021年



撮影：Hisako Kawakami



目 [mé] 《space》2020年
撮影：小山田邦哉



十和田市現代美術館

媒体名 _____

媒体ジャンル 新聞/雑誌/美術誌/テレビ/WEB/その他 (_____)

御社名 _____

御担当者名 _____

所在地 〒 _____

電話 _____

メールアドレス _____

【 画像ご使用に際して 】

- クレジットは全て明記してください。
- トリミングはご遠慮ください。
- キャプション等の文字が画像に被らないよう、レイアウトにご配慮ください。
- ご掲載の際は恐れ入りますが校正の段階で美術館までご確認ください。

お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷（おおたに）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 media@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com